

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

田原本町立田原本小学校
教諭 中本 篤志

1 単元名 「めぐる、めぐみ。」自分たちの川のはたらきを見直そう

2 単元の目標

- 生き物の様子や森林環境のしくみ、大和平野を潤す吉野川分水のこれまでの歴史や、その水を利用して田原本町の田畑も営農されていることを理解し、自分たちの生活を振り返ることができる。
(知識及び技能)
- 川上村を流れる音無川と田原本町を流れる寺川の2つの川の調査結果から、上流と中流を流れる川の違いやその利用方法や目的を考えたり、学習を通して人や生き物、環境に対して自分たちができていることを考えたりして、適切に表現することができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 2つの川の調査結果から、地元を流れる川の果たす役割を理解し、自分たちができていることを考え、持続可能な取組を実践しようとしている。
(主体的に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、「めぐる、めぐみ。」のポスター、「音無川と寺川の散策結果による比較」、「吉野川分水の歴史」を教材として取り上げる。

「めぐる、めぐみ。」のポスターとは、136kmある紀の川をテーマにして、上流部では林業、中流部では農業、河口域では漁業といった第一産業をつなぎ、水の恵みを届けていることを伝えるものである。つまり、奈良県と和歌山県の2つの県をわたる1本の川による森・里・海のつながりを「めぐる、めぐみ。」というメッセージとともに知ることができるものである。このポスターの「めぐる、めぐみ。」という言葉に着目し、自分たちに「めぐってくるもの」や「めぐみ」とは何なのかについて考えることを通して、今までの自分たちの生活を振り返ったり、これからの生活を見直したりできる教材になると考えた。

また、実際に田原本町を流れる寺川と川上村を流れる音無川を散策し、調査する活動で、2つの川の様子や役割を比較し、改めて自分たちの地域を流れる川の役割や目的について考え直すことができると考えた。そして、川は生き物のすみかのためだけではなく、吉野川分水の歴史やはたらきを学習することで、田畑を潤す自分たちの生活にも欠かせないものであるという視点にも気づき、児童の見方・考え方を深めることにもつながると考えた。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期社会科「くらしを支える水」の学習をはじめ、地元(寺川)の水が利用されていることや、浄水場の役割、県営水道のしくみについて学習してきた。また、校外学習では、「森と水の源流館」や「大滝ダム」を見学し、「水」をテーマにそこに住む人々や生き物など、自然環境についての理解を深めてきた。1学期末には、これまで学んできたことを新聞にまとめたり、自分たちが努力して取り組めることについて話し合ったりした。しかし、児童の実生活において、節水に取り組んだり、限りある水を今後も大切に使い、利用していったりしようと実践する姿はあまり見られない。だからこそ、この学習を通して、再度自分たちの生活を見直し、「水」がもたらすめぐみについて理解し、今後の自分たちの行動を問い直していくことは、持続可能な社会へのくらしへと行動化していく意義のある活動だと言える。

(3) 指導観

本単元ではまず、「めぐる、めぐみ。」のポスターを提示する。そして、「めぐる」「めぐみ」の意味について考えたり、ポスターの写真から、どんな場所で、どんな仕事をしている方なのかについて、児童が受け取る印象について意見交流をさせたりする。そのあと、社会科の学習を通して、「水のはたらき」について浄水場のはたらきや、「森と水の源流館」や「大滝ダム」を見学し、水と森と虫の関係や、ダムのはたらきについても学習する。ここでは、自分たちの身近な「水」をテーマに利用場面や、使われ方などについて自分たちの生活と重ねながら学習をする。

次に、水の飲み比べをさせる。普段から飲んでいる水道水と川上村で生まれた源流水を飲み比べすることで、同じ水なのに、どうして味やにおいに違いが生まれてくるのかという問題意識をもたせ、川上村や寺川の調査目的を明確にさせる。また、この活動では、「森と水の源流館」のスタッフや「奈良県環境アドバイザー」の講師に依頼し、現地での体験的な活動を充実させたい。これは、児童にとって、体験的な活動は、気付きや学びが多く、実際に五感で感じる様々な物事は、児童の記憶に残り、次時の活動にも効果的に発展していくことができると考えたためである。

そして、自分たちの地域を流れる寺川を生き物の視点から、今度は自分たちの生活への視点に転換させるために、「大和平野土地改良区」の方にゲストティーチャーで来校していただき、吉野川分水の歴史や、田原本町を流れる水の農作物への利用についても学習する。この活動を通して、川の水は自分たちの生活にも大きな恩恵をもたらしてくれているものであるということに気付かせたい。

さらに、これまでの学習を整理し、自分たちの川の利用目的や役割を理解し、見直す活動を通して、自分たちができる取組について考えさせたい。この学習の出口であるこの活動が、児童にとって、自分たちの町を誇りに思うことにつながり、持続可能な社会への意識を高めるものにしていきたい。

(4) ESD との関連

○ この学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・多様性…様々な生き物がどちらの川にも存在している。
- ・公平性…川の水はそれを利用するたくさんの生き物や人のものである。
- ・責任性…田原本町の水をよりよくしていくためには、自分たちの行動が大切である。

○ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力（Critical Thinking）

田原本町を流れる水にもたくさんの生き物が住んでいたり、田畑を潤す営農に活用されたり、先人の人たちが苦勞して引いてきた吉野川分水の歴史からも、この先も大切に使われ守っていくべきものだと気付く。

・コミュニケーションを行う力

音無川と寺川、2つの川の散策結果の比較を通して、その違いや同じところを見つけ、その利用方法や目的の違いに気付き、自分たちができることについて話し合う。

○ この学習を通して育てたい ESD の価値観

・世代間の公正

自分たちの世代だけでなく、寺川の恵みを未来へとつないでいこうと考え行動する。

・自然環境や生態系の保全を重視する

地元を流れる寺川にもたくさんの生き物がおり、その住みやすさからこの先も下流へと悪影響のないように大切に使い守っていく。

○ 関連する SDGs

14 海の豊かさ

15 陸の豊かさ

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①水道水が安定して送られてくる仕組みについて理解し、供給に関わる人々の工夫や努力について理解している。</p> <p>②2つの川の比較を通して、それぞれの川がもつ目的や役割について理解している。</p>	<p>①資料をもとに、気付いたことや考えたことについて自分たちの生活と関連させながら考えることができる。</p> <p>②川や滝、森の見学を通して、2つの川の違いやその役割について気付いたことや考えたことを適切に表現しようとしている。</p> <p>③川の調査結果から学んだことや考えたことを生かして自分たちの取組につなげることができる。</p>	<p>①見学を通して、水がもたらす役割や自然のはたらきについて自分の生活と関連させながら調べようとしている。</p> <p>②水の飲み比べをもとに、味やにおいの違いについて考え、今後の活動に向けて計画を立てようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全18時間）

次	主な学習活動	学習への支援	○評価
1	<p>○ 「めぐる、めぐみ。」のポスターを見て、その写真や言葉の意味を考える。</p> <p>○ 自分たちが利用している水がどこからやってくるのかについて調べる。</p> <p>○ 校外学習で「森と水の源流館」と「大滝ダム」に見学へ行く。</p> <p>○ 見学を通して考えたり感じたりしたことを新聞にまとめる。</p>	<p>・3枚のポスターから、森、田畑、海が背景に見えることや、「めぐる」・「めぐみ」という言葉から連想するものを考えさせる。</p> <p>・校舎内にある蛇口の数を調べたり、家や学校で利用している水がどのぐらいの量でどれぐらいの費用がかかっているのかについて調べさせたりする。</p> <p>・見学を通して、自分たちの飲み水の源流地を知ったり、森林のはたらきやダムの働きについて、そこで生活をする人々の工夫や苦労について気付かせたりする。</p> <p>・見学先でもらったパンフレットやメモしたことを、学習を通して思ったことなど、感想をも最後に書かせる。</p>	<p>イ①</p> <p>ウ①</p> <p>ア①</p>
2	<p>○ 川上村と地元(田原本町)の水を飲み比べる。</p>	<p>・川上村の湧き水と普段飲んでいる水道水を飲み比べさせたり、ペットボトルのラベルに着目させたり、その違いについて感じたことを発表させる。(川のイメージアンケート)</p>	ウ②

○ 川上村の音無川周辺を散策する。 (森と水の源流館スタッフ)	・音無川に住む生き物や周辺の散策を通して、自分たちが普段飲んでいる水が流れてくる源流地を調べ、生き物の様子や環境の違いなどに気付かせる。	イ②
○ 田原本町の寺川周辺を散策する。 (奈良県環境アドバイザー)	・町役場近くを流れる寺川の生き物の様子や環境の様子を川上村の音無川と比較させる。	
○ 2つの川の生き物や環境の違いを比較させる。	・生き物, におい, 川の様子, 周りの自然環境の様子, 感じ方の違いなど, 視点を絞って比較させる。(保護者にも川に関するアンケートを採っておく。)	ア②
○ 吉野川分水の歴史について調べる。 (大和平野土地改良区)	・「奈良県のくらし」で調べさせたり, 「大和平野土地改良区」の方の出前授業を通して分かったことをまとめさせたりする。	
○ 自分たちができることについて考える。 ・ポスター・パンフレット作り ・寺川クリーン大作戦 ・他学年や保護者に伝える ・川上村の森林を使った物づくり ・田原本小宣言 ・オリジナルソングづくり など	・源流地を守る川上村の取組(川上宣言)や, 水不足解決のために苦勞して工事された吉野川分水について, 地元の水が田原本町の田畑にも効果的に利用されていることを学習し, その水と自分たちがどのように今後向き合っていくのかについて考えさせたり, そのために自分たちができることを考えさせたりする。(保護者へのアンケートの結果を踏まえ, 保護者にもこれまでの学習の成果を伝える)	イ③
○ 「めぐる, めぐみ。」のポスターのメッセージについて考える。 ・「めぐる, めぐみ。」ポスター田小 ver.	・これまでの学習から, 「めぐる」「めぐみ」それぞれの言葉のメッセージを再度考え, どのようなメッセージを受け, 自分たちでどのようなメッセージを発信していかなければいけないのかについて考えさせる。	